

稲作だより

第 10 号

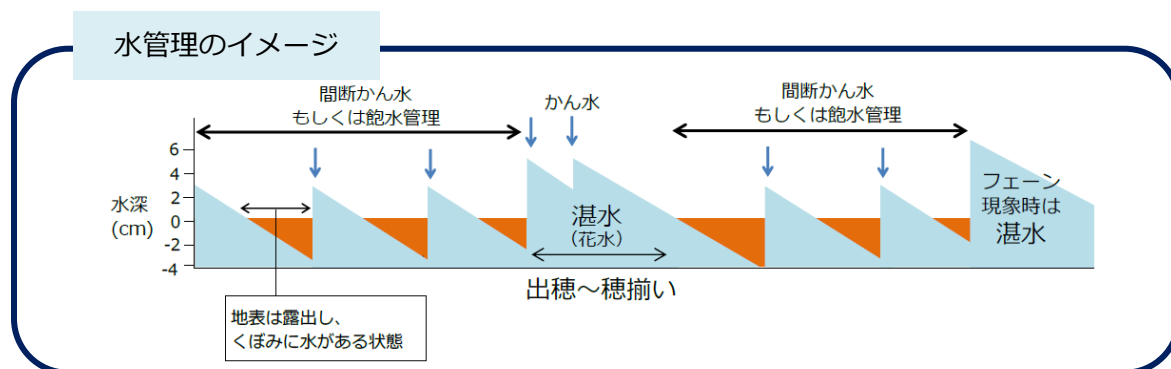
令和 7 年 7 月 24 日発行
やまがた温暖化対応
米づくり日本一運動
西村山農業技術普及課
TEL : 0237-86-8301

**早生品種では出穂が始まっています。今後も気温が高い予報！
適切な水管理で品質低下を防止！**

本田管理のポイント

1 水管理

- ・ **出穂期前後は、イネが最も水分を必要**とする時期です。水尻や畦畔を再度確認し、しっかりと湛水状態を保ちましょう。
- ・ 出穂後の登熟期は、間断かん水・飽水管理をして、根の活力を維持しましょう。
- ・ 節水管理を心掛け、**かけ流しによる水管理は絶対に行わない！**
- ・ しっかり登熟させるため、早期落水はせず、**出穂から 30 日間は水を切らさない！**



2 斑点米カメムシ類対策……今年もカメムシの発生量が多い！

- ・ 「穂揃期」 + 「穂揃期の 7～10 日後」の基本防除を徹底しましょう！
- ・ 発生状況によっては、2 回目の防除から更に 7～10 日後に補完防除を行いましょう。
- ・ 8 月中の草刈は行わず、今後は防除を徹底して行い、カメムシの被害を抑えましょう。
- ・ **地域ぐるみの一斉防除**で、カメムシの被害防止を図りましょう！！

3 いもち病対策

- ・ 葉いもちが発生した圃場では、治療効果のある薬剤で防除を行いましょう（特別栽培の場合、使用できる薬剤が生産計画で決まっているため、確認が必要です）。
- ・ 穂いもちの基本防除は「穂孕後期」と「穂揃期」の 2 回です。葉いもちの発生が多いほ場では、「穂揃期の 7 日後」にも防除を実施しましょう。

LINE を活用した情報提供を行っています。
QR コードを読み取り登録の上、ぜひご活用ください！

